

# 小児急性虫垂炎症例の病型別・年齢別検討

高山 成吉 二見喜太郎 古藤 剛  
有馬 純孝

福岡大学筑紫病院外科

**要旨：**小児虫垂炎手術症例255例を年齢別に5歳以下、6～10歳、11～15歳の3群に群別、また、組織所見から各群を相対的手術適応例（カタル性）、絶対的手術適応例（蜂窩織炎性、壊疽性）に分け、各々術前所見を比較し、小児虫垂炎における絶対的手術適応の基準となるべき因子について検討した。6～10歳、11～15歳の群では、病悩期間、嘔吐、Blumberg's sign、体温、白血球数、CRP値において、絶対的手術適応例で有意に高率かつ高度に異常値が出現し、術前の自他覚的炎症所見が比較的良好に反映されていた。一方、5歳以下の群では絶対的手術適応例が73.3%と他群に比べ高率にみられたこともあり小児虫垂炎の中でも、その対応にはとくに留意する必要があると思われた。

**索引用語：**急性虫垂炎、小児